

マス マス
♡ Math Math できる



NO. 9

R 1. 7. 6 常盤小学校 中澤智恵子

「夏のしつらえ」

半化粧（雑節の一つ）を過ぎ、梅雨が明ければ夏本番になります。クーラーなどに頼らず、夏を涼しく過ごすための対策として「クールビズ」が実践されるようになりましたが、そもそも、クーラーなど無かった時代はどのように過ごしていたのか、昭和を生きてきた私たちには懐かしい記憶と共に、しばしば昔話に花が咲きます。

その工夫には様々なものがありました。「風鈴」は、あの涼しげな音が心地よく、時折吹いてくるそよかぜとリンリンという音を聞きながら、青い蚊帳の中で昼寝をしました。最近では、近所の風鈴の音がうるさいとトラブルになような話もあり、感じ方は様々なだと自覚せざるを得ません。（；一_一）

「座布団」の質が、冬用のふかふかした物から、ゴザのような薄い物に変わったのも夏の設えの一つでした。また、そうめんや冷麦などを入れる食器がガラス製品の物になったり、食器の絵柄が夏向きになったり、暑さを和らげる工夫はあちらこちらにありました。そんな暑さ対策の一つ、「水団扇（うちわ）」を知っていますか？現在でも、団扇や扇子を使っている光景を目にしますね。「水団扇」は手漉き和紙で作られていて、見た目が透けているので、より一層涼しさが際立ちます。昔は、団扇を水につけて、気化熱で涼むという方法をとっていたようです。さすがに、私にはその経験がありませんが。（-_-）

また、夏には食べ物が腐りやすいため、保存方法にも工夫がありました。先日、職員室では、スイカを井戸で冷やして食べた話や、井戸水について盛り上がっていました。（^v^）現在は、冷蔵庫に入れ、賞味期限を確認し、食材を使う人が多いですね。昔は食材の見た目、臭いなどから、食べられるかどうか判断していました。そんな感覚が大事だった所もありますね。「感覚」を大事にすることは、様々な場面で生きてきます。例えば、私たちの仕事です。教育書を読み、学習することはとても大事です。指導書にしても然り。しかし、子どもは生きています。授業も生き物です。目の前にいる子どもを肌で感じ、理解し、必要な支援を行える感覚を大事にしたいなと思います。「夏のしつらえ」から、話が飛躍した感は否めませんが、ご容赦いただきたくペンを置きます、いえ、パソコンをシャットダウンします。<m()m>